

市内からも続々と能登半島支援!!

元日に最大震度7を観測した令和6年能登半島地震は、各地に甚大な被害をもたらし、石川県能登地方を中心にまだ活発な地震活動が続いている。石川県内では1次～2次避難所400か所余りに約2万人が避難しており、全国から様々な支援が行われている。春日部市内からも発災直後から支援物資が届けられたり、募金活動が行われたりと、支援の輪が広がっている。



自作の「緊急支援物資輸送中」のパネルが大いに役立ったという



支援物資は2トントラック2台に満載



現地では支援物資を下ろす野口社長たち

豊春会・ピーアール株

運送事業者として支援を即決 輪島市へ支援物資を輸送

豊春地域の若手経営者等が組織する「豊春会」では、会員のピーアール株（野口知司社長）を中心に、2トントラック2台分の支援物資を1月10日に輪島市に届けた。

運送事業者を手掛ける同社では、報道等で現地の様子を知り「運送事業者として何かできることはないか」と考え、輪島市役所に連絡。すると、「メーカーが携帯の充電器の提供を申し出てくれているが、輸送手段がなくて困っている」と話があったことから、同社で輸送することを即決したという。

このことを豊春会にも伝えたと一緒に支援を呼びかけ、2日間で豊春会会員18社と同社の取引企業2社から、カップラーメンや水（ペットボトル）、水のいらぬいシャンプー、携帯カイロ等々2トントラック2台分の支援物資が集まった。同社では野口社長と塚田高志専務の役員2人がトラックを運転し、輪島市に支援物資を無事届けた。野口社長によると、現地まで通常の倍の片道12時間かかったという。途中の土砂崩れや輪島市内の被害の状況、被災者の方々の様子などを目にし、「支援物資を届けても達成感はなかった」と野口社長。継続的な支援の必要性を感じたという。